

P<sub>2</sub> 妊娠糖尿病のスクリーニング試験 (glucose challenge test) を行うべき妊娠時期に関する検討

三重大学医学部産婦人科

豊田長徳, 赤 義仁, 高倉哲司, 村田和幸, 田中正人, 出口元雄, 井田 守, 吉村公一, 香谷 健, 杉山陽一

【目的】妊娠糖尿病 (GDM) に関する国際ワークショップ会議 (1985年) は GDM のスクリーニングとして、妊娠 24-28 週の全妊娠に食事摂取に関係なく 50g 糖負荷 (GCT) を行うよう勧告している。今回の GCT の施行時期に関して再検討を加えた。

【方法】対象は当病院ならびに周辺 6 診療所に来院した妊娠 11-23 週 (A 群) 313 名, 妊娠 24-28 週 (B 群) 279 名, 妊娠 29-40 週 (C 群) 69 名の妊娠で、GCT を行って 0, 30, 60 分の空腹血糖値と血清インスリン値を測定した。【成績】0, 30, 60 分の空腹血糖値は A 群  $83.4 \pm 13.1$ ,  $120.6 \pm 22.2$ ,  $107.2 \pm 27.6$ , B 群  $83.4 \pm 13.6$ ,  $118.4 \pm 18.1$ ,  $111.0 \pm 23.4$ , C 群  $85.8 \pm 15.4$ ,  $126.9 \pm 17.7$ ,  $118.2 \pm 22.0$  (mg/dL, mean  $\pm$  SD) と A B 群間では有意差を認めず, C 群では 30, 60 分値が有意に高値となった。インスリン値も A B 群間で有意差なく C 群で有意に高値となった。【結論】妊娠初期と妊娠 24-28 週における GCT の血糖値とインスリン値は大きな差はないが, 妊娠末期には有意に上昇した。GCT のより適切な施行時期に関しては, 妊娠初期における糖代謝異常の何らかのチェックとともに, 妊娠末期により近い時期での施行が望ましいと思われる。